



自立と貢献

日高市立高麗川中学校
学校だより No.6
〒350-1205 日高市原宿49番地
TEL 042-989-1158
生徒数436名
令和6年10月1日 校長 久米 隆寛

小山直城という生き方

パリ五輪での小山選手の活躍は、本校の生徒にとって大きな誇りとなり、夢と希望を与えてくれました。生徒たちが小山選手を目標に体育や部活動に今以上に励んでくれることを期待しています。同時に、それ以上に小山選手の生き方や考え方も学びに生かしてほしいと願っています。

小山選手は、パラリンピック車いすテニス金メダリスト国枝慎吾選手との対談の中で、『日々の練習の原動力は世界で戦うという夢です』【NUMBER 2024.7.11号】と語っています。また、他のインタビューでは、『純粋に走るのが好きだ』『今できることを確実にやっていこうと取り組んできた』『先入観を捨ててどんな強い選手にも攻めていって挑戦したい』とも述べていました。さらに、自分を応援してくれた方々や周りの方々への感謝の気持ちも常に語っています。

大きな夢をもち、その実現へ向けて着実に努力を積み重ね、競技では緻密かつ大胆に挑戦する。さらに、感謝の気持ちも忘れない小山選手の姿勢は、中学生の部活動、学習、学校行事、学校生活などにも生かせるところが多くあります。

私たち教職員にも小山選手の言葉からの気付きがあります。小山選手は後輩に伝えたいこととして『好きなことを見つけたい』とも言っています。教職員として、すべての生徒が自分の好きなことを見つけ、夢や希望をもち、その実現に向けて努力できるような環境を整えサポートしていきたいと考えます。学びの主役は生徒であり、教職員は生徒の学びの伴走者です。これからも生徒とともにペースを合わせて走っていきます。

行事から学ぶ

体育祭まで一週間を切りました。どの団の練習も熱いです。特に3年生は、中学生生活最後の体育祭ということもあり気合いが入っています。

体育祭は、長い時間をかけてたくさん練習します。自分の思い通りにならなかったり、時には失敗したりして、「くやしい」「つらい」という気持ちになることもあります。それでも、あきらめずに頑張りが続けることが大切です。走ることや運動が苦手な人もいます。それでも「辛かったけど自分なりに最後までやり終えた」という事実は、必ず自らを成長させ、自立した大人への一歩となります。

本校の行事は、「机上では学べないことを学ぶ」ためにあります。そして、その練習は、「自分を鍛える時間」でもあります。前向きな考え方と目標をもって、一つ一つのことに本気で取り組んでほしいと願います。自分なりに「これに挑戦しよう!」という目標をもてればさらにすばらしいです。行事に取り組む中で、みなさんの姿がさらに輝くことを期待しています。

心の花咲く園

○練習とともに…

各団の3年生が中心となり、放課後の短い時間を有効に使いながら、団のよりどころとなる団旗の制作が進んでいます。体育祭当日は、ぜひ団旗にもご注目ください。

体育祭の予備日の変更について（再掲）

体育祭の予備日の1日目を10月7日（月）、2日目を10月8日（火）といたします。4月配付の年間行事予定表から変更いたしました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



【団旗制作の様子】